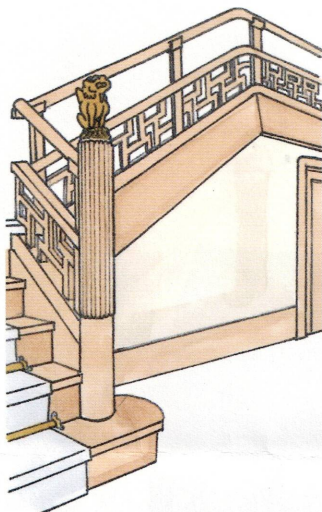
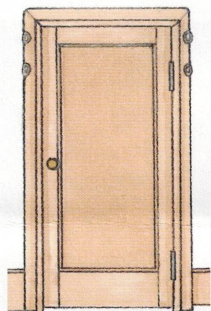




階段下 建具デザイン

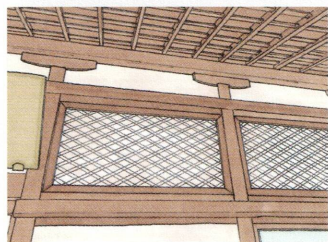
階段下の小さな建具にも、窓枠同様の小さな雲様渦巻きがデザインされている。このお部屋は昔からなぞれ「館長室」と呼ばれて親しまれている。



吹抜階段 欄干デザイン

※洋館

欄干意匠は法隆寺五重塔の高欄と同様の円崩し。階段の上下に真鍮製の狛犬が鎮座する。

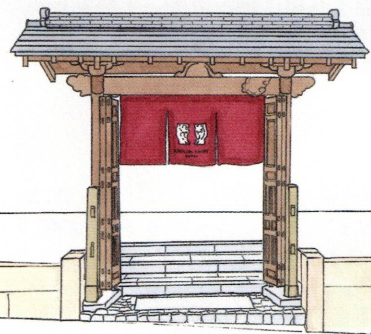


葉平格ろ模様

※和館

欄間の虎

※和館

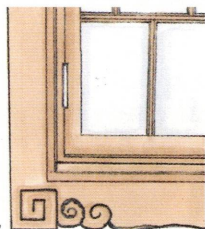
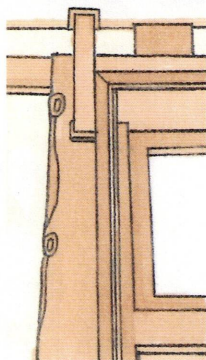


正面門

当主邸宅の茶室の門として使用していたものを平成14年に移築。約400年前の朝鮮の建材が使用されていると伝わる。扉に施されている七宝文様が美しい。

窓枠に限らず天井、建具、階段、中木などすべてが「シオジ」と呼ばれる建材で統一されている。

窓枠には角、丸、ギザギザの三種の渦巻き文様が彫られているのは、とても珍しい。上部には建具同様小さな雲様の渦巻きが片方2個彫られている。

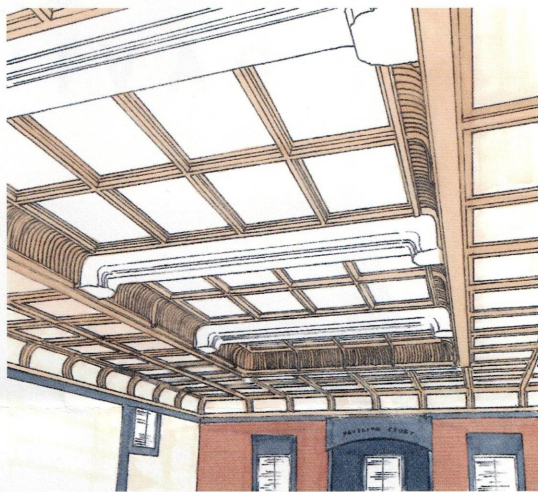


1階 窓枠装飾

※洋館

2階 折り上げ格天井 (光天井)

※洋館



大きな天窗を有する二重折り上げ格天井はとても珍しい。昔の美術館建築と同様、天窗から採光することによって壁面にもおおくの美術品を展示することが可能になった。

洋館ファサードデザイン



母屋から渡り廊下で連結されていたこの洋館は玄関が無かったことも大きな特徴。中央の扉は倉庫として使用されていた半地下地階の入り口であった。建築当初の外壁はモルタル仕上げであったが、その後、外壁はタイルに変更されている。

1階 天井・柱装飾

※洋館



1階の天井ワロスは建築当初の龍村美術織物社製の絹織物。エンタシスを思わせる美しい柱は地階から2階の床を支えている。柱の上部の双天馬双鳳文様が天井の格ろにぴったり収まり美しい。



イギリス積のレンガ壁

※洋館

洋館のレンガ壁は、強度が高いとされるイギリス積※。建築当初、壁面は漆喰で仕上げられていた。

※レンガの長手(長い面)だけの段、小口(短い面)だけの段を交互に積み上げる。

